

# 巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

塩谷惠策 SJ

42

## 第十二幕 第四場

ヴェネチア・トレビサーノ家の食堂にて

1523年6月中旬

登場人物：	イニゴ・デ・ロヨラ	巡礼者
	マルコ・アントニオ・トレビサーノ	父
	トレビサーノ夫人	母
	ドロテア	長女 (註12)
	マリア	次女
	ホアニー	長男

【語り】 サンマルコ広場で野宿していたイニゴは、親切なスペイン人マルコ・

アントニオ・トレビサーノ氏の強い勧めにより、エルサレム巡礼のため

に船を待つ間トレビサーノ家に泊めてもらうことになりました。イニゴは一家から歓迎され、問われるままに神様についていろいろ話をしながら過ごしました。

**父：**　　マリア、さっきから話してばかりいて、ちっとも食べてないじゃないか。食事中は食事しなさい。

**マリア：**でも、お食事の時しかお父様やお客様とお話しできないじゃないの。

**母：**　　それはそうだけど、マリアだけが話しては、ほかの人が話せないでしょう？　イニゴ様をご覧なさい。みんなの話をニコニコ聴きながら、静かに召し上がっているでしょう。

**姉（ドロテア）：**本当にイニゴ様はお食事が終わるまでは一言も話されませんね。一か月前に、初めてご一緒に晩御飯をいただいた時には、言葉がお分かりにならないのかと思いましたわ。

**マリア：**私もはじめお姉さまのように、口がお聞きになれないのかと思いました。でも、デザートの後からはとてもよくお話しくださいますね。神様のことがとてもよく分るので、もっともっとお話聞きたいわ。

**母：**　　イニゴ様は神様ととても親しくっていらっしゃるの、神様について分かりやすくお話しくだされるのですね。

**姉：** イニゴ様は私の心の中をすべてお見通しのように思います。迷っている時でも、一番ふさわしい答をいつもくださいますもの。

**母：** そうね。お食事中黙っていらっしゃるけど、私たちの話を注意深く聴いて下さるからですよ。ホアニも 姉さんたちの話をよく聞いているんでしょ？黙っているから。

**ホアニ（弟）：** 話したくても、姉さんたちが黙らないと、何時口を利いたらいいかわからないや。

**父：** そうだね。さっきから話しているのは 母さん、ドロテアとマリアで、イニゴさん、ホアニと父さんは ただ食べているだけ。

**ホアニ：** イニゴ様。デザートも終わりました。昨日の続きを話してください。どうしたらそれほど神様だけに信頼できるのですか？お金を持たずに、よくバルセローナからガエタまで船で来られましたね！

**イニゴ：** ホアニだって、見えない神様を信じて祈っているだろう？それはね、お父さんお母さんを信じて 安心して生活しているからだよ。明日の朝パンがあるだろうか？お母さんは晩御飯を作ってくださいだろうか？なんて心配しないだろう？ 神様は私たちの父、マリア様はお母様だから、子供たちのために全てを用意しでくださるに決まってるでしょう？だから何を食べ、何を着ようかなどと心配しなくていいんだよ。「天の御父

がすべてを計らってくださるから思い煩わないで、何よりも先ず神の国  
とその義を求めなさい」とイエス様は教えていらっしゃるよ。

**マリア：** イニゴ様、私もお聞きしたいことがあるんですが、いいですか？

**イニゴ：** はい、喜んで。ホアニはもういいかな？

**ホアニ：** はい、有難うございました。まだあるけど、今日は姉さんど一ぞ。

**マリア：** 有難う、ホアニ。イニゴ様、私の父はお金持ちです。「金持ちが天の  
国に入るのはラクダが針の穴を通るよりも難しい」とイエス様がおっし  
やいましたが、私たちが天国に入るのはそんなに難しいのですか？

続く

\*\*\*\*\*

註 12：イニゴは聖地に向けて出帆するまで、以後トレヴィサーノ家に滞在し、  
一家を挙げて歓迎され、親切なもてなしを受けた。ただし、子供たち  
の数および名前は架空のものである。